

# 〈あいまいな喪失〉とは何か

## ～子どもと家族のケアについて学ぶ～

### ポーリン・ボス博士講演会のご案内

平成23年3月11日の東日本大震災では、行方不明者の数が3千人以上に及び、さらに、福島では放射能問題により故郷を離れ、母子疎開を余儀なくされている現状があります。海外では、家族が行方不明になることは「あいまいな喪失(ambiguous loss)」と呼ばれ、リスクを抱えた子どもと家族に特有な問題が生じるといわれています。この度、「あいまいな喪失」に関わる支援の世界的な第一人者であり、行方不明者家族などへの多くの支援経験をもつミネソタ大学のPauline Boss博士を被災地にお招きし、福島での講演会と仙台でのワークショップを開催します。被災者支援に携わる、関心のある方、どうぞ奮ってご参加下さい。

#### 講師紹介： Pauline Boss博士(ミネソタ大学)

ミネソタ大学名誉教授。自身の体験から「あいまいな喪失(ambiguous loss)理論」を提唱。行方不明者の家族、認知症患者の家族など、あいまいな喪失に苦しむさまざまな家族の支援経験をもち、9.11の米国テロの際にも成果をあげた。著書に「さよなら」のない別れ、別れのない「さよなら」学文社、「Loss, trauma, and resilience. Therapeutic work with ambiguous loss」Norton & Companyなど。



#### Pauline Boss博士 講演会 \* 逐次通訳付き

日時：平成24年12月1日(土曜日) 午後1:30～4:30

対象：教育・心理・福祉・医療・看護など支援に携わる方、関心のある大学院生

参加費：無料(別途資料代1000円)

場所：コラッセふくしま 401会議室

(福島駅西口より 徒歩3分) 福島市三河南1-20 電話024-525-4089

#### 〈申し込み方法〉

福島大学人間発達文化学類 生島浩(日本家族研究・家族療法学会副会長)研究室まで、

【名前・所属・電話番号・Eメール】をFAXしてください。FAX:024-548-5172

〈申し込み締め切り〉 2012年11月22日(木曜日)

(定員100名。申し込み多数の場合は、福島の方を優先させていただきます)

※申込みが定員を超えた場合には、連絡させていただきます。

お問い合わせ：福島大学人間発達文化学類 生島 浩 (shojima@educ.fukushima-u.ac.jp)

(主催) 日本家族研究・家族療法学会

(共催) JDGS(Japan Disaster Grief Support)プロジェクト

(後援申請中) 福島県、福島県教育委員会、福島県精神保健福祉センター、  
福島県臨床心理士会、ふくしま心のケアセンター

本企画は、日本家族研究・家族療法学会及び明治安田こころの健康財団「2012年度研究助成」、平成24年度福島大学「競争的研究資金助成」によって運営しております。